

## 第28回刈谷市障害者自立支援協議会議事録

日 時 平成29年3月16日（木）午後3時30分～午後5時

場 所 刈谷市役所 401・402会議室

委 員（敬称略）

### <出席者>

愛知教育大学前教授	都 築 繁 幸
医療法人成精会	垣 田 泰 宏
社会福祉法人ひかりの家	大 南 友 幸
特定非営利活動法人パンドラの会	岡 部 扶 美 子
特定非営利活動法人くるくる	中 井 啓 介
刈谷市身体障害者福祉協会	平 野 健 司
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	藤 井 孝
刈谷手をつなぐ育成会	篠 原 真 由 美
刈谷地区心身障害児者を守る会	鈴 木 小 枝
刈谷地域精神障害者家族会	長 谷 川 宏
刈谷市障害者支援センター	増 子 恵 子
刈谷市社会福祉協議会	加 藤 桂 生
刈谷公共職業安定所	岡 田 將 男
衣浦東部保健所	佐 野 隆 司（代理）
愛知県立安城特別支援学校	都 築 正 徳
愛知県立ひいらぎ特別支援学校	森 勝 弘（代理）
刈谷市教育委員会	神 谷 拓 生

### <欠席者>

刈谷商工会議所	河 内 利 夫
刈谷児童相談センター	武 田 靖 志

### （事務局）

福祉健康部 部長	鈴 本 裕
福祉総務課 課長	近 藤 敦 人
〃 課長補佐	山 岡 達 也
〃 障害企画係長	酒 井 武 士
〃 主任主査	森 洋 喜
〃 主事	森 下 果 歩
〃 主事	鈴 木 玲 奈
刈谷市基幹相談支援センター	関 美 智 子

## 開会

### 資料の確認

- ・ 次第
- ・ 刈谷市障害者自立支援協議会委員名簿
- ・ 資料1 刈谷市障害者自立支援協議会 各部会検討結果（平成28年度）
- ・ 資料1－① 「地域生活部会」後期活動報告について
- ・ 資料1－② 「就労支援部会」後期活動報告について
- ・ 資料1－③ 「相談支援部会」後期活動報告について
- ・ 資料1－④ 「子ども部会」後期活動報告について
- ・ 資料1－⑤ 「事例検討研修会」後期活動報告について
- ・ 資料2 平成29年度刈谷市障害者自立支援協議会の体制案について

### 1 会長あいさつ

### 2 議題

#### (1) 各部会の平成28年度後期活動報告について

事務局 資料1により、各部会の検討結果について説明

#### ア 地域生活部会

部会長 資料1－①により「地域生活部会」後期活動報告について説明

会長 基調講演で使用した資料を使って各所で研修するのもよい。障害者差別解消法に関するセミナー、パネルディスカッションは色々なところで実施されているが、法律を読まずに、特に「障害を理由に」を抜かして不当な差別、合理的配慮について議論しているところが多い。また当事者と関係者が集まる対話の場を設けていくのもよい。形式的ではなく対話を重ねていけばそれが事例の積み重ねや相談窓口の確立に繋がると思う。このような話し合いを10年は続けないと制度は浸透しない。

#### イ 就労支援部会

部会長 資料1－②により「就労支援部会」後期活動報告について説明

会 長 平成30年に刈谷市には特別支援学校が開設される。刈谷市の特別支援学校にはその機能に特別支援教育のセンター的機能がある。是非、就労支援体制の連携の中でもその役割を果たして欲しい。

委 員 セミナー、フォローアップ等は他の地域でも行っているが、今回のセミナー後の繋がりが面白いと思う。精神障害をテーマにした内容であるが、特別支援学校に対しても企業からのニーズが高まっている。学校も対応するが、市でもこのようなセミナーを開催することにより障害者理解が広がりやすくなる。

委 員 本校に就労を希望する生徒は少ないが、何人かはある。その子達に地域のセミナーを通して、学校だけではなく、各支援機関の連携の中で障害者雇用をより高めていくことが大切。

委 員 精神障害者はうまく就職できてもその後に辞めてしまう方が多い。企業も合理的配慮をして頂くとともに、フォローしないと続かないので、ジョブコーチ制度を充実して欲しい。また法定雇用率の未達成による罰則だけではなく、障害者を雇用した企業に対する表彰制度などを作ってもよいのではないか。

委 員 表彰制度はある。全国に大臣表彰や知事表彰があるが、ある程度、障害者雇用をしている優良企業は表彰を受けている。企業には採用に終わらず定着支援をお願いしている。またハローワークでマッチングフェアをやったことがあり、14社が参加した。

部 会 長 定着支援が大事である。今回のセミナーでも移行支援と繋がることで、採用までに終わらず、定着支援もセットでお願いしている。またハローワークのマッチングフェアでは、移行支援と企業が出会う場があった。その場では一般の面接会ではできない支援ができた。今回採用に繋がった発達障害の方は色々な障害を持っており、一般の面接会では採用に至らなかったが、実習からやらせて頂き、採用に至った。

委 員 刈谷市は事業所同士の顔合わせの機会が少ないと思う。安城市では自立

支援協議会の部会に全事業所が出席し、顔見知りになっている。本校の生徒も同じ事業所にずっといると状況も変化することがあり、そのような時に状況に応じて他の事業所に声かけするなどしている例がある。事業所が繋がることでこのような動きが活性化する。A型、B型に留まらず生産型の生活介護なども含めて連携していくのがよいと思う。

会 長 是非、部会でも今の意見を踏まえ検討して欲しい。今年はA型で集まったが来年はB型も含めるといふことか。

部 会 長 そのようなことを含め検討したい。

ウ 相談支援部会

部 会 長 資料1-③により「相談支援部会」後期活動報告について説明

会 長 移動支援事業ガイドラインは事業所に働きかけるのか、またそれに加えて、例えば当事者団体等に配布するなど当事者への働きかけも考えているか。

部 会 長 まずは、事業所に働きかけることを考えている。

会 長 基幹相談支援センターの効果について記載されているが、何か補足はあるか。確認の意味も含めて改めて説明して欲しい。

事 務 局 刈谷市障害者支援センター内に平成28年4月より基幹相談支援センターを開設した。機能はこれまで各事業所に散らばっていた初期の相談機能を総括し、窓口を明確化させ、障害種別や年齢を問わず、また手帳の有無しに関わらず様々な障害に関する最初の相談の総合窓口である。引き続き支援が必要な方などは各事業所へ引き継いでいる。

委 員 計画作成に関する対象者の絞込みとはどういうことか。

事 務 局 計画作成は必要であり計画作成する対象者を絞るという意味ではない。まだ案の段階ではあるがセルフプランを考えている。相談支援事業所の忙

しい事情を考慮し、それを少しでも解消するための方策として検討している。

委員 移動支援ガイドラインの7Pの質問14の「入院をしている人に対して」とはどういうことか。

部会長 障害者の家族が入院し、障害者が家族の世話をするためにお見舞いに行く必要があった際に認められた事例があったのでそれを想定している。

事務局 表現が分かりにくいため修正する。

委員 「強度行動障害」という言葉は使用しないということについて、以前も強度行動障害者を受け入れてくれる事業所は少ないということがあったが、強度行動障害者も利用できる事業所があるという認識でよいか。

部会長 そのような認識でよい。

委員 過去に断られたことがあるという話を聞いている。事業所によっては断られるということもあるが、一度利用するなどして見て、結果として対応できないということがあり得るということか。

部会長 言葉として使用しないということであり、サービスは利用できる。但し事業所の状況によっては結果として対応できないというケースはあり得る。

会長 「強度行動障害」という言葉は医学的な定義がはっきりしていないということ間違いはないか。

委員 間違いはない。

エ 子ども部会

委員 資料1-④により「子ども部会」後期活動報告について説明

会 長 福祉と教育の連携は、厚生労働省と文部科学省で所管が異なることにより起こる支援の切れ目の問題が背景にある。この連携はこれまでも議論されてきたが、刈谷でも共通理解が得られるよう試みて欲しい。ところでセミナーはどんな状況か。

委 員 セミナーは平成30年1月の開催を目標に考えている。学齢期の親やその子さんを対象としていく予定である。

会 長 子育てをした先輩の話の聞くと説得力がある。一般的な内容ではなく、実際に障害児を育てた親の経験を伝えるのはよい。

#### オ 事例検討研修会

事 務 局 資料1-⑤により「事例検討研修会」後期活動報告について説明

会 長 その他部会も合わせて質問等はないか。

委 員 子ども部会に関してだが、学校としては、平成25年に文部科学省の通知を受けて何もしない訳にはいかないと考えている。支援計画は個人情報であり、親の了承が必要であるため、PTAには話を通し、了解を得た。保護者全員に放デイの契約のときに、学校の支援計画を持参するよう義務ではないがお願いすることにした。また学校と事業所が連携していくために、事業所が多いため個別で事業所と連携するのは難しいと考えており、学校見学会を開催してどのような支援をしているか見て頂こうと考えていたが、まだこちらは実現には至っていない。

委 員 計画相談は現状、待ちが多い状態である。働く意思があるのに計画作成で待ちの状況になっており、すぐに働くことができないことがある。セルフプランにしても出来る人、出来ない人がいる。本人を支える家族を何とかしなければいけない人も多い。これは国の問題であり、計画があるばかりに、本人がサービスを使いづらくなっている。自立支援協議会に市長も来て欲しいという思いがある。もっと障害福祉の議論を活発にしたい。福祉は人であるが、人を育てる財源がない。そのことも市長にも聞いて欲しい。

会 長 行政評価委員会の中で、自立支援協議会などの意見を踏まえ、福祉の問題を入れて、それを評価しているため、理解して欲しい。

委 員 相談支援を行っているが、計画作成の数が多く、寄り添った支援が出来ていないことや、タイムリーな計画作成が出来ていないのが実態である。但しセルフプランを検討するに当たっては、安易にやると、本人の希望から遠ざかることもあるので、慎重に検討するべきだ。

## (2) 各部会の平成28年度後期活動報告について

事 務 局 資料2により、平成29年度刈谷市障害者自立支援協議会の体制案について説明

会 長 先ほど人の問題について意見があったが、実務担当者会議を設置するということで、スキルアップを図って欲しい。

## 3 その他

事 務 局 来年度の1回目は5月中旬を予定しており、決まり次第日程を連絡する。